



## 2026年、遅れて来た初日の出

2026（令和8）年元旦。旭山記念公園では遅れて来た初日の出を拝むことができました。

○6時50分：雪が舞い、空は雲に覆われ、初日の出は難しそうな空模様。ただ、東側の空がなんとなく黄色みがかって見えてはいました。駐車場は6時30分過ぎにはもう満車になっていました。

○7時3分：日の出時刻3分前、空はまだ一面の雲。この頃から初日の出は見られそうにないと早々に見切りをつけて帰る人が出始めました。

○7時6分：初日の出時刻。やはり太陽は見えず。帰る人の流れで駐車場は人と車で混み合いました。

○7時15分：東の空は雲が一部切れて青空が見え、薄い朝焼けになってきました。

この時点で展望台周辺にはまだ100人以上が残っていて、早々に帰る人も多かった一方、もしかして初日の出が見られるかもしれないと思っていた人も意外と多かったようです。

○7時25分：藻岩山平和の塔の向こうの空では、雲の一部がかすかにオレンジ色になっているように見え、展望台にいる人たちの間では「もしかして初日の出が」という雰囲気になってきました。

○7時28分：雲が薄くなり、太陽の色と形がはっきりと見えました。初日の出です。

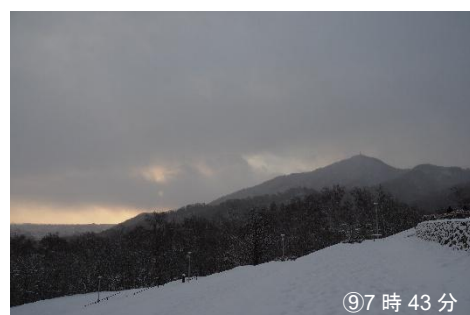
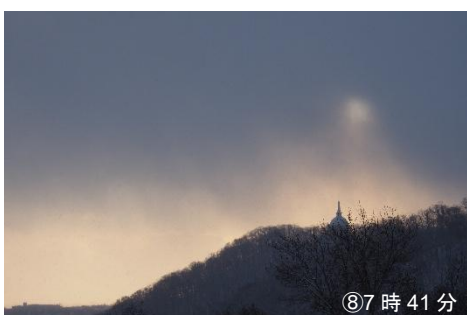
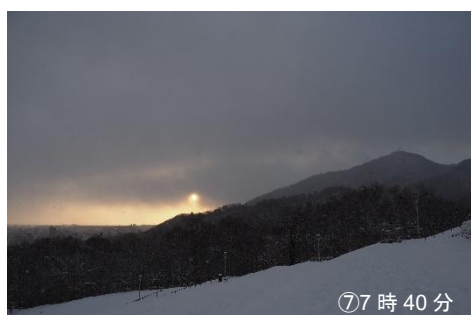
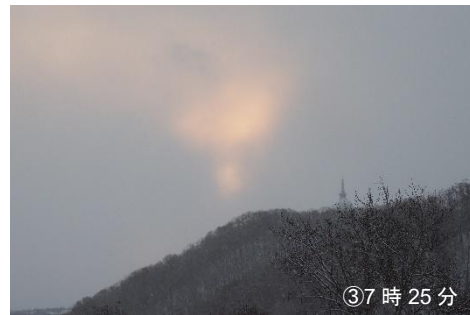
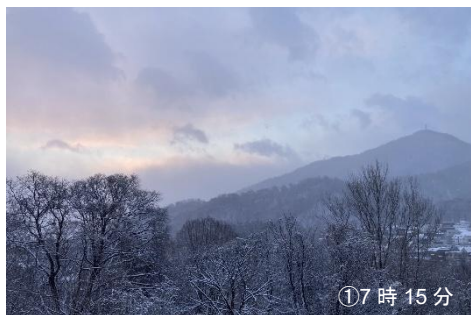
地平線から昇る太陽は見られなかったですが、少し遅れて初日の出を拝むことができました。

○7時36分：藻岩山平和の塔の上に太陽が見える「ダイヤモンド平和の塔」、角度によってはそう見える位置に太陽が来ました。この頃がいちばん太陽がはっきりと見えていました。

その後は見えたり見えなかったり、8時には本格的に雪が降り始めて太陽は見えなくなりました。

来訪者は400人前後、歩いて来る若者が意外と多かった印象です。

遅くなりましたが、本年もよろしくお願いします。



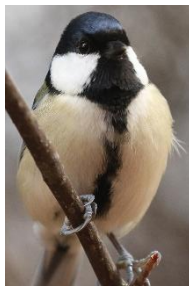
## 旭山野鳥メモ 76 シジュウカラ

シジュウカラ Japanese Tit *Parus cinereus* スズメ目シジュウカラ科

留鳥だが北海道では一部が秋に南に渡る。頭部は黒い帽子、頬の周りは黒い帯で囲まれる。喉から下腹部までつながる「ネクタイ」と呼ばれる黒帯があり、雄(右写真左上)はそれが太く下腹部で大きく広がり、雌(同上右)は細いまつつながる。翼に隠れた背中部分に青い羽がある(アカゲラ通信 2025 年 4 月号参照)。

年 2 回繁殖、旭山では幼鳥(同下)は初夏と盛夏に見られる。巣立ち直後は体に黄色みがあり、頬の下の黒い帯がつながっておらず、「ネクタイ」も胸元辺りまでしかないが、成長に従い黄色みがなくなり、黒い部分は伸びてゆく。成鳥では印象的な背中部分のオリーブ色の部分も幼鳥は薄い。囀りは「ツーピー」と2音。

他のカラ類は12月から1月に囀りを始めるがシジュウカラは遅く3月になる。最新の研究では、60もの言葉があり、文法まで存在することが分かってきた。庭の巣箱をよく利用し、人の近くにいる割には、カラ類の中では警戒心が強い。市街地でも見られ、野鳥観察の「入口」として存在感が高い野鳥だ。



## 2026年1月の野鳥トピックス

- シマエナガ：12月中旬以降は週に2、3日見られる程度です。  
今冬は観察頻度が低いです、状況は変わるかもしれません
- キクイタダキ：園内での観察情報が増えてきました
- キバシリ：森の家周辺でよく見られていますが、1月から学びの森や遊具広場周辺でも見られています。囀りはまだです
- ウソ：「フィ」と声は聞かれますが姿はあまり見られていません
- シメ：「シーツ」と鳴き声はよく聞かれ姿を見る機会も少ないですが、警戒心が強くなかなか近寄れません
- ベニヒワ(右写真み)：1月に入り園内で数羽がほぼ毎日見られるようになり、専らシラカンバの種子を食べています ●マヒワ：今冬はほとんど見られていません
- カケス(亜種ミヤマカケス)：「ピョー」と何の鳥か分からない鳴きまねをする個体があります
- クマゲラ：週に3、4回園内で近くで見られており、鳴き声はほぼ毎日聞かれています
- ヤマゲラ：観察機会は多くはないですが時々不意に近くで見られることがあります



## 身近な生き物関連の書籍を3冊紹介

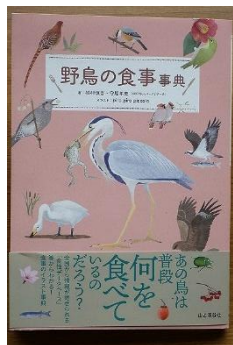
冬は寒いし雪道の運転も大変、どこへも出かけたくない・・・それなら、読書などはいかがですか？



僕には  
鳥の言葉が  
わかる  
鈴木俊貴  
講談社

※シジュウカラの言語研究で今や広く知

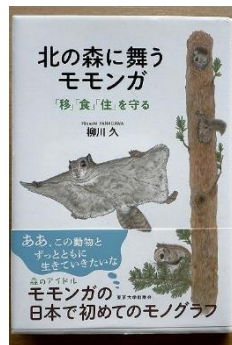
られた著者が、若い頃の経験を綴ったエッセイ。自然科学系書籍としては異例のベストセラーとなり、「ノンフィクション大賞2025」を受賞しました。



野鳥の食事  
事典  
植村慎吾  
守屋年史  
山と溪谷社

※野鳥は何を食べているの？  
植物の実など

野鳥の食べ物の趣向から食べ方の特徴まで、全国から集められた野鳥43種のデータベースをもとに、分かりやすく解説した1冊。野鳥観察・撮影にも役立ちます。



北の森に舞う  
モモンガ  
「移」「食」「住」  
を守る  
柳川久  
東京大学出版会

※エゾモモンガを帯広で長年研究し

てきた著者が、その生態を「移」＝移動、「食」「住」の面から解説しまとめた1冊。これを読めば、エゾモモンガがどのような生き物であるかがよく分かります。

